

モジュール5 「ジェンダー視点に立ったプロジェクト の計画・立案」

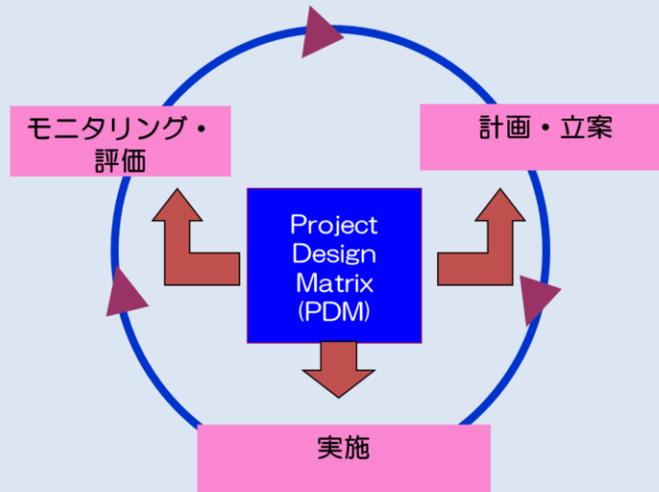
137

モジュール4では、ジェンダー分析調査の結果から、プロジェクトの円滑な実施に支障をきたすと思われる課題の抽出方法について学びました。

モジュール5では、抽出された課題を念頭に、プロジェクト活動をどのようにジェンダー視点を入れ込んでいくのかを見ていきたいと思えます。

特に、JICAの技術協力プロジェクトが、プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)及びプロジェクト・デザイン・マトリックス(PDM)に則って行われていることから、ここでは、特にPDMにどのようにジェンダー視点を取り込んでいくと良いのかを中心に、お話ししていきたいと思えます。

1. JICA事業の運営・管理 プロジェクト・サイクル・マネジメント



138

JICA事業は、プロジェクト・サイクル・マネジメント(PCM)に基づいて、実施されているのはご存知のことと思います。

モジュール1でお話したように、PCMは計画-実施-評価と言う、一連の流れに沿ってプロジェクトを実施していく事です。そして、これまで見てきた「ジェンダー分析調査」は、計画の段階で、実施されるものでした。

Project Design Matrix (PDM) とは？

何を、どうやって、いつまでに達成しようとしているのか/達成しなければならないのかを簡潔に示した表

プロジェクトの概要	指標	データ入手手段	外部条件
上位目標			
プロ目標			
アウトプット			
活動	投入		前提条件

プロジェクトのジェンダー主流化
 ||
 PDMへのジェンダー視点の取り込み

139

PCMと共に、JICAの技術協力プロジェクトは、PDMを指針に運営されます。プロジェクトが期待された成果を生み出し、プロジェクト目標が達成されたかどうかは、PDMに基づいて判断されることとなります。

どれほど対象地域住民に受け入れられた活動であったとしても、その活動がPDMの中に記載されていないならば、その活動はプロジェクトがなすべきものであったとは認められませんし、何らかの成果を生んでいたとしても、その成果はプロジェクトの成果として評価されることもありません。

従って、プロジェクトでなすべき活動、達成すべき成果はすべてPDMの中に織り込まれている必要があります。このことは、「ジェンダー分析調査」を通じて、明らかにされた課題を克服するためにプロジェクトが実施する活動についても同様です。どのような活動をするのであっても、必ず、その活動をきちんとPDMの中に記載することをくれぐれも忘れないようにして下さい。

また、このことは逆に言えば、PDMの中に取り込まれている活動であれば、プロジェクトとして実施しなければならないと言う事です。例えば、皆さんがジェンダーの短期専門家としてプロジェクトに赴任されたとします。その際に、皆さんが提案したジェンダー活動等が、きちんとPDMに取り込まれることになれば、皆さんの離任後にその活動が実施される蓋然性は高まります。しかし、その反対にPDMに記載されていないならば、その活動が実施される可能性はあまり高くないかもしれません。

PDMの中に記載されるという事はそのくらい重要なことであることを留意していただいたら、次のスライドに進みたいと思います。

2. ジェンダー視点に立ったPDM その手順

1. 活動

- プロ目達成を阻害するであろうジェンダー課題解消のための活動の特定

2. アウトプット

- ジェンダー視点を反映したアウトプット設定の必要性の検討

3. 指標

- ジェンダー視点の適切な取り込みを担保するための指標の設定

140

それでは、PDMをジェンダー視点に立ったものとするための手法について確認していきます。

活動、アウトプット、指標の順にみていきます。

3. ジェンダー視点に立ったPDM

プロジェクトの概要	指標	データ 入手手段	外部条件
上位目標			
プロ目標			
アウトプット			
活動	投入		
			前提条件

141

まずは活動です。

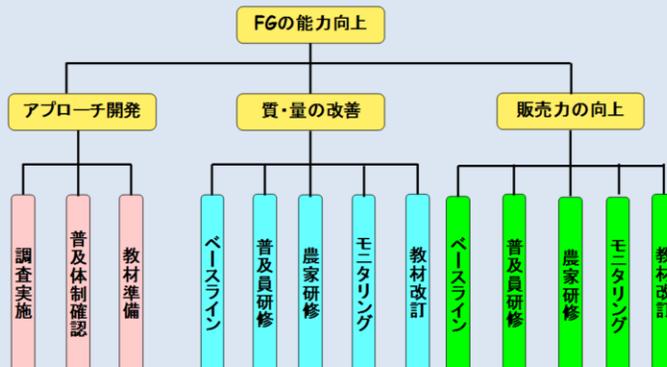
モジュール4では、プロジェクト活動の円滑な実施を阻害しそうなジェンダー課題について見てきました。これらの課題をそのまま放置しておく、プロジェクト目標の達成が危ぶまれる事態にもなりかねないことが分かりました。

従って、この課題を克服、あるいはせめて緩和するために、プロジェクトとして何らかの活動を実施していく必要があります。

ここでは、「ジェンダー課題の克服／緩和」をはかる活動について見ていくことにします。

3. ジェンダー視点に立ったPDM (活動)

Step 1: ジェンダー分析調査で特定された課題
が既存の活動のどの部分に該当するかを
検討



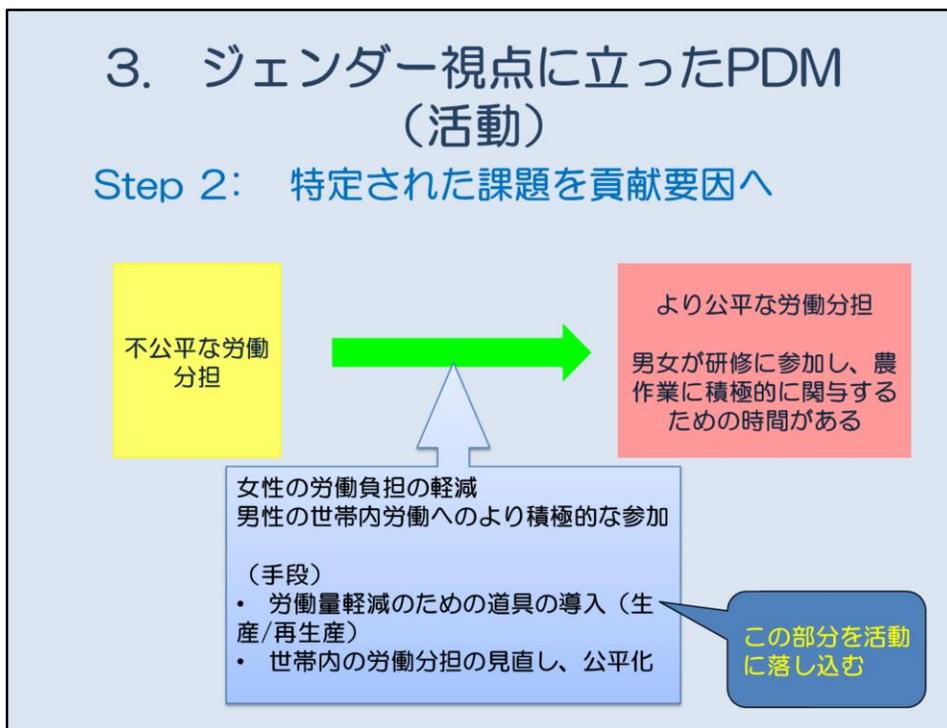
142

ステップ1から4まで、4段階に分けて、順番に見ていくこととします。ここでも、事例としてHPIPを取り上げます。

まず、ステップ1です。モジュール4でも紹介したこの図を思い出してください。HPIPでは農家が参加する活動として、アウトプット2及び3の活動であるベースライン調査、農家研修、モニタリングが、挙げられていたかと思います。ジェンダー分析調査で特定された課題は、当然、農家が参加するこれらの活動に影響を与えることとなります。

3. ジェンダー視点に立ったPDM (活動)

Step 2: 特定された課題を貢献要因へ



次に、ステップ2として、ジェンダー分析調査から抽出された課題を克服する方策を検討します。

ジェンダー分析調査結果から抽出された課題がいくつかありましたが、ここでは例として「不公平な労働分担」を取り上げてみます。「不公平な労働分担」が課題なので、これをプロジェクト活動を通じて「公平な労働分担」へと変化させていかなければなりません。

「不公平な労働分担」は、男性に比べ、女性は生産活動と共に再生産労働も担っていることからもたらされることが、ジェンダー分析調査を通じて明らかにされました。HPIPがプロジェクト目標を達成するためには、男性と共に生産活動を担う女性がHPIPの研修に参加し、研修で得た技術を活用するための十分な農作業時間を確保するよう促していく必要があります。そのためには、現在の女性の過重労働を軽減しなければなりません。どうしたら、女性の労働時間を軽減できるでしょうか。

労働時間の軽減は、一つは道具や器具を活用することで、作業時間を短縮することによってもたらされるはずですが、また、もう一つは、女性が一人で行っていた作業を他の人と分担することです。HPIPの具体的な活動として、女性の労働負担が大きい作業への道具や器具の導入、あるいは女性の労働負担への他の世帯構成員の理解を促進するための研修実施等が考えられます。

プロジェクトとしてこのような活動を実施し、「公平な労働分担」の達成を通じて、農作業に参加している男女双方が研修に参加し、習得技術を農地で実践できるよう、農家男女を支援していく事が肝心です。

3. ジェンダー視点に立ったPDM (活動)

Step 3: 検討した活動をPDMの中で整理できる
か否かを再検討
(HPIPのフレームワークとの整合性)

Step 4: 検討した活動が男女の協働を促進する
ものであるかを確認

144

次のステップ3では、ステップ2で特定された活動がHPIPのフレームワークの中で実施可能なものかどうかを検討します。例えば、極端な例となりますが、もし、対象農家が園芸作物生産の傍ら、稲作生産をしているという場合、いくら稲作生産にかかる作業量が多くても、そのための道具・器具をHPIPが開発・頒布することは難しいと考えられます。しかし、女性の水くみ作業の軽減を図るために、農家に雨水用のタンク設置を促すと言った活動は、プロジェクトに大きな負担をかけることなく、実施することが可能です。

そして、最後のステップ4として、行う活動が男女のいずれか一方が実施するものではなく、男女の協働で実施できるものであることを確認してください。女性のある労働にかかる時間の軽減が、別の作業時間の増加で図られることのないように留意してください。例えば、女性が遠くのイチバまで、食事用の野菜を買いに行くのが大変だからと、庭先で野菜栽培をするという活動があったとします。野菜栽培が女性だけの活動となってしまったら、買い物に行くよりも女性の労働時間がもっと長くなりかねません。野菜栽培は必要ならば、世帯構成員皆が参加することが前提とされるべきです。

女性の労働時間の軽減により、女性の休息時間が増え、その結果として生産活動により効率的・効果的に従事することで、収量や収益の増加がもたらされるはずで、女性の労働時間軽減は夫や子供を含む世帯構成員全員の便益であるとの理解の下、世帯構成員が負担も便益も共有しあうという事を念頭に活動を特定してください。

4. ジェンダー視点に立ったPDM

プロジェクトの概要	指標	データ 入手手段	外部条件
上位目標			
プロ目標			
アウトプット			
活動	投入		
			前提条件

145

次にアウトプットを検討します。

4. ジェンダー視点に立ったPDM (アウトプット)

Step 1: ジェンダー視点を入れ込んだ活動のアウトプットとして、現在のアウトプットが適切か否かを検討

Step 2: 必要に応じて修正する。

146

アウトプットは、活動実施の結果としてもたらされるものです。

まず、現在のアウトプットがジェンダー視点を入れ込んだものとして適切であるかどうかを検討してください。例えば、アウトプットの文言を男性と女性の差異が意識できるように、修正することは一つの方法です。

HPIPのアウトプット2は「The production of better quality crop is increased in the target groups」です。これを男女の差異が意識できるように変更するにはどうしたらよいでしょうか？一つの例として、「The production of better quality crop is increased for both men and women members of the target groups」とすることが可能でしょう。こうすることで、対象グループには男女が含まれる必要が出てきますし、また、男女メンバー双方の収量を増加させることがプロジェクトとして必要となってきます。モジュール1で取り上げた「性別データ」を思い出してみてください。

5. ジェンダー視点に立ったPDM

プロジェクトの概要	指標	データ 入手手段	外部条件
上位目標			
プロ目標			
アウトプット			
活動	投入		
			前提条件

147

最後に、プロジェクト目標及びアウトプットの指標について確認します。

5. ジェンダー視点に立ったPDM (指標)

Step 1: 設定された指標は、男女の相違を図れるようになっているかを検討

例: 「農家の収入向上」 -
農家とはだれ?

Step 2: 必要に応じて修正する。

148

指標は、プロジェクト目標やアウトプットが達成されているかを客観的に判断するためのものです。仮にプロジェクト目標やアウトプットの文言にジェンダー視点が入れられていなくても、指標が男女それぞれの変化を見るものとされていれば、プロジェクトは必然的に、男女双方に働きかけることとなります。

ここでも、HPIPのPDMを参照します。HPIPのプロジェクト目標の指標は、「Increased net-benefit of the smallholder horticulture groups supported by the project」です。この一文に「men and women members」を加え、「Increased net-benefit of men and women members of the smallholder horticulture groups supported by the project」とすれば、男女双方のプロジェクト介入前後の変化を見る必要があります。

このように、是非、指標の数値が男女双方に言及したものとなるよう工夫してください。

6. 演習問題

149

それでは、これまでに説明してきたことを確認するための演習問題に、ここで取り組んでみてください。

演習問題：PDMの修正

これまでの説明に基づき、モジュール2で特定した課題、制約要因を緩和するため、現在のHPIPのPDMを、ジェンダー視点を入れ込んだものへと修正し、以下の要領で取り纏めてください。

- 活動(アウトプット毎に整理)
- アウトプット/指標

150

これまでの説明を参考に、HPIPのPDMをジェンダー視点を取り込んだものに修正してみてください。

7. まとめ

活動

- プロジェクトの枠組みの中で整理する
 - 男女の協働を促進できる活動とする
- (例)
- ジェンダー啓発研修の実施
(PDM活動2-2/2-3)
 - 農作業の労働負荷軽減のための軽量農具
の開発・導入 (PDM活動1-4)

152

前述したように、活動では、プロジェクトの枠組みの中で整理できること、また男女の協働を促進することを留意点として、絞り込みを行います。

ここでは、農家が男女間の格差がどのように、作物収量や収益に否定的な影響を与えているのかを啓発するためのジェンダー研修の実施と、農作業負担の軽減を図るための農具の導入を例として取り上げています。

この軽量農具という点に注意してください。男性と女性は、同じ農具を同じように使用できない場合があります。男性であれば、道具を力任せに使いこなすことも可能かもしれませんが、男性にとっても重い道具を女性では使いこなすことは出来ません。道具を使いこなせないことで、女性は手作業を余儀なくされている場合があります。女性の作業量を減らすために、どのような農具なら女性が使えるのかについても、是非、プロジェクトとして考えてみてください。

活動

(例)

- 識字能力をできるだけ必要としない研修教材の開発（PDM活動1-4）
- 男女参加比の設定
- 教授法へのジェンダー視点の導入

153

識字教室を開くことはHPIPの枠組みの中では難しいと思われませんが、農家向け教材は絵を多用する等の工夫をすることで、識字力が十分ではない受益者の理解を図ることは可能です。

また、忙しい女性を研修に来てもらうために、男性の理解を図りつつ、研修参加者の男女比を設定し、女性が研修に来易い環境を整備していく事も重要と言えます。例えば、皆さんもある研修に参加する際に、直属の上司は仕事が忙しいからと反対しても、全社的に研修参加が義務付けられてしまえば、直属の上司は反対できません。地域の有力者に後押しをお願いして、女性が参加できるように取り計らってもらおうというのは、有効な手段です。

また、研修に女性に来てもらえたら、出来るだけ、彼女たちに発言してもらうように努めるようにして下さい。多くの人の中で自分の意見を言う事は、慣れていないと非常に難しいものです。しかし、何度か発言することで、少しずつ慣れていくものでもあります。女性が発言し、それを男性が聞くという雰囲気醸成しながら、男女の意見の相違を農家が尊重できるようにします。

他にも、男女が互いの違いを認め合い、尊重できるような活動を考えてみてください。

活動

参考資料

モジュール 3
参考資料

Identified Gender Gaps and Possible Interventions on HPSP

Key: M – Men, W-Women, HH - Household

HPSP interventions & activities	Findings from Study	Analysis from Study	Identified gender gaps	Proposed interventions
1. Participation in HPSP trainings	M: have some interest in horticulture production because of its perceived benefits. F: have interest in horticulture production because of its perceived benefits. M: have free time W: have throughout the day because of their extensive involvement in both production & reproductive roles. M: As regards control of resources & benefits, men have more control than W.	M: Likely to be interested in training. W: heavy workload likely to limit their participation in training. W: lack of control over income may have negative influence over their interest in training.	M: Likely to dominate training	Through affirmative action, both men and women should be invited to the training. Gender trainings should be organized to raise awareness of all HH members on importance of sharing of workload and benefits. Introduction and promotion of labor saving technologies to reduce the workload of W.

モジュール 3
参考資料

July	Identified gender gaps	Proposed interventions
men: not included by women	If trained participants have little decision making power in HH, they are unlikely to fully implement acquired technologies & skills unless a decision maker approves and provides financial support.	Training on importance of involvement of all HH members in decision making process.
men: time allocation in process.	Adoption of knowledge and skills promoted by HPSP could be partially compromised.	Since this intervention is likely to increase workload of HH members, introduction of labor saving (energy and time saving) technologies and awareness raising on workload sharing among HH members will be of great importance.

154

参考資料は、プロジェクトの活動に照らし合わせながら、課題を整理し、課題克服のための活動を導き出すことを意図したマトリックスです。

このように活動と課題を整理することで、何をすればよいのかがより明確になりますので、是非参考にしてください。

Identified Gender Gaps and Possible Interventions on HPIP

Key: M – Men, W-Women, HH - Household

HPIP interventions & activities	Findings from Study	Analysis from Study	Identified gender gaps	Proposed interventions
1. Participation in HPIP Trainings	<p>M: have some interest in horticulture production because of its perceived benefits</p> <p>F: have interest in horticulture production because of its perceived benefits</p> <p>M: have free time</p> <p>W: busy throughout the day because of their extensive involvement in both productive & reproductive roles</p> <p>M: As regards control of resources & benefits, men have more control than W.</p>	<p>M: likely to be interested in training</p> <p>W: heavy workload likely to limit their participation in training</p> <p>W: lack of control over income may have negative influence over their interest in training</p>	M: likely to dominate training	<p>Through affirmative action, both men and women should be invited to the training.</p> <p>Gender trainings should be organized to raise awareness of all HH members on importance of sharing of workload and benefits.</p> <p>Introduction and promotion of labour-saving technologies to reduce the workload of W.</p>

HPIP interventions & activities	Findings from Study	Analysis from Study	Identified gender gaps	Proposed interventions
<p>2. Adoption and practice of trained technologies</p>	<p>M & W: Participate in farming but at different levels and degrees.</p> <p>M: involved in productive activities</p> <p>F: involved in productive activities & manage kitchen garden.</p> <p>W: busy throughout the day because of their extensive involvement in both productive & reproductive roles</p> <p>M: As regards control of resources & benefits, men have more control than W.</p>	<p>M: likely to adopt recommended agronomic practices in the farm but rate of adoption is affected by income and other benefits expected.</p> <p>W: likely to adopt recommended agronomic practices but rate of adoption may be affected by time availability, cost implication involved & their position in HH decision-making process.</p>	<p>If trained participants have little decision-making power in HH, they are unlikely to fully implement acquired technologies & skills unless a decision-maker approves and provides financial support.</p> <p>Adoption of Knowledge and skills promoted by HPIP could be partially compromised.</p>	<p>Training on importance of involvement of all HH members in decision-making process.</p> <p>Since this intervention is likely to increase workload of HH members, introduction of labour saving (energy and time saving) technologies and awareness raising on workload sharing among HH members will be of great importance.</p>

アウトプット

- 活動の成果として適切か否かを検討する
- 必要に応じ、ジェンダー活動に係るアウトプットの導入も検討する

「キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画フェーズII」

The concept and approach to mainstream gender into plan, implement and monitor technical training on irrigated rice production are established.

157

アウトプットについては、前述したように、男女の差異を意識できるようにアウトプットの文言に手を加えることは一つの方法です。

また、ここに例として挙げたように、プロジェクトのジェンダー主流化をアウトプットとして一つ設けることもできるかと思えます。

指標

- 男女の差異を測れるものとする

(例)

2-1 Average growth rate of net produce
of **male & female members** of the
farmer groups supported directly by the
Project.

158

最後に指標について見てみます。

指標についても、前述したように男女の差異を図れるように工夫することが出来ます。「農家」という漠然とした中性的な表現ではなく、対象者を具体的に思い浮かべることが出来るような指標を作成してみてください。

まとめ

男女双方がプロジェクトの便益を受けている事を確認できるよう工夫

プロジェクトの概要	指標	データ入手手段	外部条件
上位目標			
プロジェクト目標			
アウトプット			
活動	投入		前提条件

男女双方がプロジェクトの便益を得られるように工夫

159

それでは、最後にもう一度、PDMにジェンダー視点を取り入れる際の注意点を確認します。

活動については、参加農家の男女双方が便益を受けられるように工夫してください。JICAの技術協力プロジェクトが対象とする農家の多くは小規模農家です。これらの小規模農家はほとんどの場合、その労働力を世帯構成員に頼っています。その世帯構成員の半分に、プロジェクトからの便益が届かないというのはもったいないことです。男性も女性も重要な受益者として、プロジェクト活動を検討してください。

次にアウトプットや指標では、男性も女性もプロジェクトからの便益を受けていることが確認できるように工夫してみてください。男女を対象として活動を行っているのですから、男女双方が便益を受けていることを確認するのは当然のことと言えます。プロジェクトの介入前後で双方にどういった変化が起きたのか、確認できるようなアウトプットや指標を検討してみてください。

まとめ

ジェンダー視
点を必ず
PDMに取り
込む

特に、指標に
取り込むこと
で、ジェン
ダー関連活動
を実施する必
然性を担保

プロジェクトの概要	指標	データ 入手手段	外部条件
上位目標			
プロ目標			
アウトプット			
活動	投入		前提条件

160

繰り返しになりますが、PDMに記載されていない事柄は、プロジェクトでは実施できませんし、実施する必要はありません。従って、ジェンダー課題を緩和・克服することが、プロジェクト活動の円滑な実施やプロジェクト目標の達成に貢献すると判断されるならば、その緩和・克服するための活動は、PDMに記載されていなければなりません。

また、活動に記載されているだけだと、「その活動はやりました」で終わってしまいがちですので、特に指標に男女の差異、また男女の介入前後の変化の度合いが分かるような文言を組み込み、ジェンダー関連活動が実施される必然性を担保してください。

別添資料に、能力強化研修参加者による本課題に係るグループワーク結果がありますので、そちらもご参照ください。



これらの写真を見て、何を思われますか？

左上の写真は、稲作プロジェクトの研修で農家に田植えを実践してもらおうとしているときのものです。男性は見物に徹しているようです。この地域では、田植えは女性の作業と考えられているので、このプロジェクトでもその考えに基づいて、女性だけに作業をもらったのです。しかし、せっかく男性農家があるのに、こんなもったいないことをする必要があるのでしょか。男性農家は農作業の時間を割いて研修に来ているのに、田植えの方法を学ぶ機会を奪われています。もしかしたら、この研修に参加した後でも、男性は田植えをしないかもしれません。しかし、少なくとも、田植えをどうやって行うのか、その大変さ等はここで実践するだけでも学べますし、奥さんが留守の時に、自分でもやってみようかと思うきっかけになるかもしれません。プロジェクトがわざわざ予断を持って、どの作業を男女いずれが行うのかを決める必要があるとは思えません。

左下の写真は、研修に参加した時の男女の着席状況です。この地域はイスラム教の人がほとんどで、男女が隣り合って着席する習慣はありません。しかし、このように前列が男性、後列が女性と分かれてしまったら、研修中に女性が発言することはとても難しくなってしまいます。教室の左側には女性が、右側には男性が着席するようにするなど、男女双方が学びやすく、発言しやすい雰囲気づくりに努めてください。

右の写真では、たった一人の女性参加者が、男性の輪の中に入れずに困っています。参加者皆が、研修から十分な便益が得られるよう留意してください。



男性も女性も、皆同じ参加者です。右下の写真は、栄養の研修で煮野菜を皆で作った時のものです。男性の嬉しそうな表情が印象的です。

この作業は男性、これは女性と、プロジェクト側が決めつけることなく、誰もが経験し、学べる研修とするように努めてみてください。そうすることで、参加者は自分たちの思ってもみなかった得意分野を発見するかもしれませんし、自分がしたことのない作業の大変さを理解して、その作業をしている相手に感謝の念を感じるようになるかもしれません。